

●小野市歌 (山田 耕筈:作曲)

(一)

はるけく長みち たどりつつ うつりかわりも 繁かりし
こしかたおもう 夢のかず 荒野をひらき 生活の
よりどころとて 村づくり 町つくるわざ 汗あえて
いまに励むわが小野市

(二)

あけゆく大空 仰ぎつつ いぶく大地を ひたむきに
うるおしやまぬ 川川よ 流れをひきて そなえたる
水も垂井も いとなみを 四季のめぐりに こたえては
あすもあらん わが小野市

(三)

のびゆく産業 まもりつつ こぞる行く手を てらす灯と
かがやき発く 花のあや 遠雲におう はたてには
あかるく山も ほほえめば 胸おどらせ 声高く
うたい次がん わが小野市

●倉敷市歌 (宮原 禎次:作曲)

(一)

吉備の南 大河清みて
めぐり 路は 交す蜘蛛
大倉敷 市民われ等

(二)

阿知の干潟 拓き成りし
沃野けふぞ 誇れ自治に
大倉敷 市民われ等

(三)

和協借ひ 匡すかたち
鶴と舞ふを 仰ぎ膽よや
大倉敷 市民われ等

(四)

並び進む 商と工と
競ひ映ゆる 学ぞ芸ぞ
大倉敷 市民われ等

●山崎町々歌 (信時 潔:作曲)

(一)

におえる雲と咲きいでて
下照る花の町あかり
山の国なる山崎の
沢どおりまた谷すじを
こぞりてきょうは万里ゆく
つばさひろげてはばたかん

(二)

古きにたずね吹きかよう
新風おくる町づくり
枝をひろげし山崎の
木木の勢いを山川も
ねがいてきょうは濁なき
水をあつめてことほがん

(三)

大きく夢をはずませて
名もなき草に町ぐるみ
よせるふるさと山崎の
風土の支え人の和を
あわせてきょうは力ある
自治の足並ととのえん

●大阪市消防局の歌 (大沢 寿人:作曲)

(一)

火を恐れよ火を 火を 火を
制するもの
未然に競ひて 消防
災禍へ備ふ
大阪市民の楯と

(二)

聞け 高鳴るひびきを
相ひく局是の
明 強 敏もて 消防
ひたすら応ふ
大阪市民の附託

(三)

見よ 哀なる誠を
ひそめし力の
待つある恃みて 消防
馥郁匂ふ
大阪市民の意気ぞ

●起て戦災者 (須藤 五郎:作曲)

(一)

起て戦災者遠慮なく
自分自身を とりもどせ
悪夢とつとと消え失せろ
おつかぶさつた夜が明ける
がつつり腕を組み合つて
用意はできた いざ起たう

(二)

起て戦災者昂然と
自分で啓くくらい窓
この瞳で仰ぐ大空は
きのふとちがふ澄んだ色
みんなが浴びて伸び上がる
でかい太陽 いざ起たう

(三)

起て戦災者けふからは
自分自體が身の主
ふるい檻褻着はすっぽりと
棄てて着替へていさぎよい
新日本が呼びかける
焦土を踏んでいざ起たう

●別子建設株式会社社歌 (信時 潔:作曲)

(一)

呼ぶ石槌の白雪に
こたへて光る燧灘
別子の谷を分けいでて
北に南にはた西に
東天紅の建設の
井桁はいろぞ映えまさる

(二)

知れ揺ぐなき伝統に
大地を劃し渠をひらき
光をのせて水いたる
大き土木もつつしみて
順ふ規制方寸の
信義に生きて成るものを

(三)

描く設計図おのれから
たゆまず正すいとなみに
かさぬる夢の層と層
けふはかがやく雲を截る
和の社は虹も添ひ匂ふ
われらがわざよほこりあれ

●ユーハイム社歌

(信時 潔:作曲)

(一)

雪のアルペン 夢遠く
のせて流れるラインのふるさと
風光かがやく名どころへ
高いほこりをかよわせて
生きがいきょうも菓子づくり
ユーハイム この職場 店

(二)

日々のくらしに灯を入れて
照らせ明るく心の燭台
真っ赤な太陽 白い雲
黒く枝張る森の縦
年輪殖やす菓子づくり
ユーハイム この職場 店

(三)

友ののぞみはわが願い
つばさひろげて舞い立つ大空
顧客の支えが 励ましが
築く繁栄 上昇の
一筋道の菓子づくり
ユーハイム この職場 店

●かみまち小唄

私やどっこん国 加美町がよいさ

(一)

青い山脈 夢からさめて
山国焼けしたあなたの顔が
きょうも明るい加美の里 加美の町

(二)

はずむ仕事だ 杉山檜山
つづく田の畔 織機の羽音
夢を織ってる加美の里 加美の町

(三)

さくら三月かすみがかかりや
杉の木立も遠めに夜目に
濡れてほつれた加美の里 加美の町

(四)

月が花橋や スイスイほたる
しのぶうたごえ しびれる河鹿
月も濡れてる加美の里 加美の町

(五)

空は底抜け 抜けるよな晴れだ
千が峰から すすきが招く
風がものいう加美の里 加美の町

(六)

とけて流れる 三国の雪を
かわい娘が なさけの手鹿き
きょうも杉原加美の里 加美の町

(七)

篠が峰なら 雲門寺なら
霧の杉原 谷間のそだち
こいのこいこく加美の里 加美の町

(八)

キャンプサイドの 灯が揺れて
鹿ものぞきに 市原がよい
うそかほんまか加美の里 加美の町

(九)

森の二ノ宮 かんむり烏帽子
お山金蔵 雲呼ぶ鐘と
うまれ故郷の加美の里 加美の町

(十)

岩座神では 不思議が七つ
中で千本杉 名も背も高い
三谷滝谷加美の里 加美の町

(十一)

紙は紙でも 杉原紙は
腰がつよくて 色白美人
いっそ長持ち加美の里 加美の町

(十二)

熱いおもいに いとしさ添えて
恋の先染め 末広がり
ちぎり結んだ加美の里 加美の町

(十三)

解いた帯のよな 杉原川に
うかれところが ふとさそわれて
好きでいろくろ加美の里 加美の町

(十四)

青玉神社の 杉や背が高い
高いはずだよ 神さまお宿
祭る氏子も加美の里 加美の町

(十五)

凍ごりコンニャク 丹治の嫁女
大宴小宴 凍てつく風に
艶な後れ毛加美の里 加美の町

(十六)

あなた松井庄 内づらきつい
わたしゃ杉原谷 雪しろ山女
添うて白髪に加美の里 加美の町

●東条湖小唄

(一)

土井の瀬の瀬で
鴨川せいて
あわせかがみか
湖のいろ

(二)

山のみずうみ
鎮守は愛宕
東條名どころ
米どころ

(三)

水にうつった
家ヶ峰晴れて
いっそ化緒する
秋津富士

(四)

播州清水
お山の塔へ
虹が立ちます
湖水から

(五)

古家黒谷
玉だれ透いて
山が遠見の
朝光寺

(六)

森と天神
目とはなの仲
耳を立てるが
椅鹿谷

(七)

せきのかげはし
水天宮へ
まわせかじ取り
たのみます

(八)

岩の妹背は
屏風でかくす
瀧のに立つ名が
なぜ消せぬ

(九)

五所の峡谷
蓬萊鞍馬
高根鷲の巢
不動岩

(十)

におう六甲
描き眉ひいて
化粧ばえした
東條湖

●女護 沼島の唄

(水谷 央:作曲)

照る日曇る日、沼島から見ればヨイヨイ、
四國見江たりかくれたりコラシヨヨイシヨ

沼島岩根のどんどん浪にヨイヨイ、
親子ざかなが泣きわかれコラシヨヨイシヨ

あすはおさらば沼島の衆よヨイヨイ
別れともない涙雨コラシヨヨイシヨ

日でり雨だよこんこんちきのヨイヨイ
およめ入りだよ島のあめコラシヨヨイシヨ

これはたこ壺みぢかよの夢がヨイヨイ、
さめれやふねのなかはらのなかコラシヨヨイシヨ

淡路見えたとて何となるものかヨイヨイ、
こひし戀しのうちぢやなしコラシヨヨイシヨ

●兵庫県国体讃歌 国体を賛える歌
作詞：富田 碎花
阪本 知事

立ち上がるスポーツ日本
鳴り響くうず潮越えて
北海へ風通うべし
青春こそれ血沸かせこの日
国民体育大会きようぞ
佳き日のきようぞ

燃えさかる聖なる炎
ほゝ染めて若人なれば
花やかに技競うべし
力と熱とひしめく広場
国民体育大会きようぞ
佳き日のきようぞ

晴れわたる空ゆく雲も
しばらくは歩みを停めて
こえ合わせほめたとうべし
郷土を担いかゞやく記録
国民体育大会きようぞ
佳き日のきようぞ

(昭和三十一年第十一回国民体育大会)